会員ニュース

2010 年度極地雪氷分科会セッションおよび総会報告

雪氷研究大会（2010・仙台）において極地雪氷分科会のオーガナイズドセッションならびに総会を開催した．参加者は，36 名であった．総会終了後に第 52 次日本南極地域観測隊（本山秀明，新堀邦夫，倉元隆之，小端拓郎，日下　稜）の壮行会を兼ねた懇親会を盛大に実施した．

日　時：2010 年 9 月 26 日（日）17：00〜19：20
場　所：東京エレクトロンホール宮城 602 会議室

プログラム

I.　オーガナイズドセッション　17：00〜17：50

ドームふじ深層氷床コアから求められた過去 72 万年間の大気成分の変動

青木周司[1]，川村賢二[2]，中澤高清[1]，松本康志[1]，仲田久和[1]，松島寛尚[1]，菊地佑斗[1]，本山秀明[2]，藤井理行[2]，渡辺興亜[2]，
[1] 東北大学大学院理学研究科，[2] 国立極地研究所

＜講演概要＞

過去の気候変動と大気組成変動の関係を明らかにし，それらの変動のメカニズムやそれらの間に働いた相互作用を調べるために，ドームふじ深層氷床コアから空気を抽出し，過去 72 万年間にわたる大気成分の分析を進めてきている．本講演では，これまでの分析によって明らかにされた温室効果気体濃度の変動を中心とし，大気主要成分の窒素や酸素の安定同位体比やコア年代の決定に用いた酸素・窒素濃度比についても紹介された．

II.　総会　18：00〜19：20

1.　観測実施報告
・第 51 次南極観測夏隊報告
本山秀明（極地研），平林幹啓（極地研），西村大輔（北大低温研）
・NEEM（グリーンランド深層氷床コア掘削計画）2010 年活動報告　東久美子（極地研）

2.　観測計画報告
・第 52 次南極観測・雪氷部門実施計画報告（ドームふじ関連）
本山秀明（極地研），新堀邦夫（北大低温研），倉元隆之（極地研），小端拓郎（極地研），日下稜（北見工大大学院）
・第Ⅷ期一般観測計画「熱水掘削によるラングホブデ氷河底面環境の観測」の紹介
杉山　慎（北大低温研）

3.　南極観測将来計画検討 WG 報告
第Ⅷ期南極観測 6 カ年計画案について
本山秀明（極地研）

4.　事業報告
・国際対応幹事報告　杉山　慎（北大低温研）
・ホームページ対応幹事報告
小嶋真輔（東洋製作所）
・会計報告　亀田貴雄（北見工大）

5.　役員改選

6.　その他
・極地雪氷分科会への寄付のお願い
亀田貴雄（北見工大）

当日の役員改選では，次期の分科会長として榎本浩之氏（北見工業大学社会環境工学科教授），幹事長として杉山　慎氏（北海道大学低温科学研究所講師）が満場一致で選出された．

なお，極地雪氷分科会総会は年 1 回の開催であり，ここでは南極や北極域での雪氷学に関する種々の観測成果や今後の観測計画などが報告されている．極地雪氷分科会員以外の方々も参加可能なので，極域の雪氷学に興味のある学会員の方々は，来年度の極地雪氷分科会総会にぜひご参加ください．本報告での不明な点などは，各報告者もしくは亀田まで問い合わせください．当日行われたセッションと総会の資料は，極地雪氷分科会のホームページにアップロードしてあるので，都合により出席できなかった方は参考にしていただきたい（http://www.seppyo.org/~polar/）．

極地雪氷分科会の役員任期についてはこれまでは 2 年間という任期は決まっていたが，任期の始まりと終わりの日時が明確に決まっていなかった．そこで，任期開始日は選出された総会日の翌日と新たに決め，その規定を極地雪氷分科会の規約 12 条に書き加える事とした（規約は上記の HP を参照の事）．

（北見工業大学　亀田貴雄）

（2010 年 11 月 16 日受付）

2010 年度気象水文分科会報告

分科会総会

日　時：2010 年 9 月 27 日（月）19 : 30〜20 : 00

会　場：東京エレクトロンホール宮城 会議室 401

報告事項

1. 昨年の活動（2009 年雪氷研究大会時の衛星観測分科会との合同セッション）について報告があった．
2. 2010 年日本地球惑星科学連合大会の関連セッション「雪氷圏と気候」と連携して分科会から話題提供者の推薦を行った旨，報告があった．
3. 昨年度会計報告，会計および活動についての監査報告が行われた．
4. 本総会および 2010 年合同セッションの『雪氷』掲載を予定している旨，報告があった．

審議事項

1. 今年度任期満了に伴う分科会会長の交代については，さらに 1 期 2 年を現会長の兒玉裕二氏（北大低温研）に引き続きお願いすることとすることで参加会員の合意をみた．
2. 幹事長の交代について審議がなされ，分科会長より次期幹事長として鈴木和良氏（JAMSTEC）の推挙（本人内諾済み）があり，満場一致で承認された．
3. 他の分科会との合同セッションについて，
   - 目的意識が必ずしも明確ではない合同セッションを慣習的に行うのでは，分科会としてのアイデンティティが保てない．
   - まず，取り上げるべきテーマについて分科会でよく検討し，確かなコンセプトを決定した上で，「必要に応じ」研究セッションの合同開催をすべきである．

   などの厳しい意見が会員から指摘され，次期分科会事務局へ申し送りの上，研究セッションのテーマ選定および合同セッションのあり方について，引き続き検討することとした．

研究セッション

日　時：2010 年 9 月 27 日（月）18 : 00〜19 : 30

会　場：東京エレクトロンホール宮城 会議室 401

昨々年度，昨年度に引き続き水文気象分科会と衛星観測分科会による合同セッションを，「雪氷圏研究のための衛星観測・モデルに基づいた長期間データセットとその周辺」と題して行った．

まず，寒冷圏気候変動の研究を行う上で必須かつ有用なデータセットやそれに見る気候変動の特徴的な話題，寒冷圏の様々なデータを統合的に扱うデータアーカイブプロジェクトについての紹介が行われた．続いて，寒冷圏気候変動の象徴的な現象といえる北極海における海氷変動について最新の手法的研究の紹介 2 件（いずれも衛星観測分科会からの話題提供）があった．これら合計 4 件の話題提供後，アーカイブプロジェクトや最新の海氷研究について質疑・議論が交わされた．参加者は，両分科会合計で 31 名であった（写真 1）．

写真 1　セッションの様子